

フットパスルート



宇井教授の説明に聞き入る参加者ら

四十三山ルート

四 十三山ルートは、1910年（明治43年）の噴火の跡をたどるルートです。

1910年（明治43年）7月に小さな前兆の地震が始まり、地震の回数の増加に伴って、地割れも発生しました。

7月25日、金毘羅山で水蒸気爆発によって火口ができ、次々と45個の火口や断層群が北山麓の東西2.7の地帯にできました。この噴火は予測されていたので、15,000人が事前に避難できました。噴火そのものによる犠牲者はませんでした。11月10日までに100

以上隆起して潜在ドームである四十三山（明治新山）となりました。

洞爺湖温泉の源泉は、この時に地下から上昇してきたマグマを熱源としています。

フットパスルート上の観察ポイント

観察ポイント
1910年噴火による火口群

1910年の噴火で45個の火口が形成されました。一世紀を経た現在では、森林に覆われています。



1910年噴火後の写真

観察ポイント
噴気孔

1910年の噴火以降、水蒸気が噴出し続ける噴気孔です。常時50度程度の水蒸気が噴出しています。



観察ポイント
四十三山山頂展望台

早春には約11万年前のカルデラ噴火で形成された洞爺湖および5万年前の溶岩ドーム（中島）が一望できます。

